2012年3月24日

2012年度群馬県審判技術講習会報告書

期日・場所　　　　　　　　2012年3月11日・上毛新聞敷島球場

協力校　　　　　　　　　　東京農業大学第二高等学校硬式野球部

館林支部参加者　　　　　　佐伯・近藤・坂本・磯・増田

講習会の目的　　　　　　　群馬県審判員の技術向上をはかり、もって野球の普及発展を

　　　　　　　　　　　　　はかることを目的とする

　　　　　　　　　　　　　１　技術の普遍化と資質の向上

　　　　　　　　　　　　　２　基本的な位置と動きの確認

　　　　　　　　　　　　　３　審判員個々の修正

審判員の心得　　　　　　　１　マナーと身だしなみ

　　　　　　　　　　　　　２　健康管理と精神の集中

　　　　　　　　　　　　　３　規則書と競技者必携、県大会取決め事項の習熟

　　　　　　　　　　　　　４　動作はキビキビ　グランド内は駆け足

重点目標　　　　　　　　　１　基本に忠実

　　　　　　　　　　　　　２　判定における角度と距離

　　　　　　　　　　　　　３　ゲームは正確迅速テンポ良く

　　　　　　　　　　　　　４　動作は機敏にセンス良く　装具は完全に

　　　　　　　　　　　　　５　健康で同調・協調・確認を

共通事項　　　　　　　　　１　ボールデッドにする時はダイヤモンドに入り、大きな声

　　　　　　　　　　　　　　（タイム）とジャスチャーで行う

　　　　　　　　　　　　　２　他の審判員も同調してタイムをかけます

　　　　　　　　　　　　　３　守備側と攻撃側の動きを止めます

　　　　　　　　　　　　　４　妨害やボークの場合は、規則違反をしたプレーヤーを

指差し、妨害やボークを宣告します

　　　　　　　　　　　　　５　審判員が協議するときは、プレーヤーから離れた場所で

　　　　　　　　　　　　　　　4人揃ってから、協議は素早く実施

　　　　　　　　　　　　　６　協議の結果、アウト・セーフ・フェア・ファール・

　　　　　　　　　　　　　　　走者の進塁・帰塁を指示する時は、4人の審判員が

　　　　　　　　　　　　　　　離れず、その場で行います。

　　　　　　　　　　　　７　また、本塁に近い走者から進塁・帰塁を指示するとともに

　　　　　　　　　　　　　　大きな声とジェスチャーで行います

講習及び伝達事項

１　Go-Stop-Call

 必ず、左足でスタートし、左足で止まれる様、自分でコントロール出来る様にする。

　　　また、廻りを意識して、前後左右の列が乱れない様にする。

２　トラッキング

　　　近い距離から緩いボールを投げて投球を追う講習を行う。

投球は、球筋を目だけでキャッチャーミットに入るまで追う。その際に顔は

　　　動かさない。投球判定コールは目線をキャッチャーミットに見て、しっかりと

投球の軌跡を確認してからコールする。

球審の投球判定で一番大事なことは、一定のタイミングで安定したジャッジを

行う事で、それには、トラッキングをしっかり身につける必要がある。

近い距離から緩いボールを投げてもらい投球をトラッキングする練習は

試合の待機時間でも出来るので、時間を見つけて行い、トラッキングを

マスターする。

３　球審の構え

球審は、スロットポジションで構え、投手に正対し、ゲットセットは、投手の

自由な足が地面に着く時にしっかり構えて、球筋を目だけで追う。

リラッツクスは、必ず、スロットポジションから真後ろに下がる。ホームベースの

後方の位置に下がる人がいるが、折角、良い位置にいるので、軸足を置く時に

遠くなるので、ホームベースの後方には下がらない様にする。

これの一連の行動もリズムよく行えば、投手のテンポもよくなり、試合進行を

早める事に繋がる。

４　一塁審のフォースプレイ

　　　ベースから５ｍ位の距離で送球に対して90度の角度を取り、“**走者の**

**触塁**”、“**野手の捕球**”、そして“**野手の触塁**”の３点が、

一番良く見える位置で判定をする。アウト時のコールは、必ず野手の

捕球を顔で追い、そのままの状態でコールをする。

90度の角度が取れない頃は、“**野手の触塁**”が見える位置を最優先と

する。

打球を2塁手がライン際に追って送球する状況では、2塁手の動きを見て

その場に留まるか、ファールエリアに出るかを判断する。ファール

エリアに出る場合は、右足からスタートする。

ファールエリアに出て判定を行う時も、打球から目を離さず、打者走者

の走路に立たない様にする。

タイミングはアウトだが、野手のエラー等でセーフになった時は、次の

ジェスチャーを用いる。

・野手の足がベールから離れた時

　　　　　　『**セーフ、オフ・ザ・バッグ**』とコールをし、セーフの

ジェスチャーに続いてに両腕を野手の足が離れた方向に振る。

・野手がボールを落とした時

　　　　　　『**セーフ、ドロップ・ザ・ボール**』とコールし、セーフの

ジェスチャーに続いて、落球した地面を指差します。

・ 野手がボールを“お手玉”した時

　　　　　　『**セーフ、ジャッグル・ザ・ボール**』とコールし、セーフの

ジェスチャーに続いて、“お手玉”のように両腕のヒジから先を

交互に上下させます。

・ライン際の外野飛球について（三塁審も同様）

　　　ライン際の飛球の捕球は、先にポイントを行い、その後に

　　　　　　　キャッチアウトのコールを行う

５　二塁審のフォースプレイ、ダブルプレイ

　　　・打球に対して、野手のプレイの妨げにならない様に、ピボットマンの

グラブの捕球面が確認できる位置に移動し、スタンディングで捕球する

野手に正対する。

・野手が打球を捕り、２塁への送球動作に移ったら、ベース側に足を一歩

引いて、ベースに正対します。このとき、顔は野手に向けたボールから

目を離さないようにします。

・野手が送球したら、顔もベースに向けて（身体の全部をベースに正対

させて）、スタンディングのまま視点を２塁ベースに合わせ、“**走者**

**触塁**”、“**野手の捕球**”、そして“野手の触塁”に集中する。

　　　・アウトの時はピボットマンが送球してからコールする。

　　　　この時にアウトになった走者の妨害がありうるので、視線は2塁ベースに

　　　　合わせておき、2塁上のプレイが一段落したら、一塁上で悪送球等も

　　　　あるので、一塁でのプレイを確認する

・ピボットマンがボールを確実に受け止めた後、これに続く送球動作に

移ってから落球した時は、捕球と判定し、二塁審は次のジャスチャーを

用いる。

『**アウト、ステール(Still)　アウト**』とコールしながら、アウトの

ジェスチャーに続いて、“左手をパー、右手をグーで左手から右手を

右上に引く様なジャスチャーをする。

その時の一塁審は、内野ゴロが打たれたら、打球を見ながらフォース

プレイの距離を取り、１塁ベースに正対し、顔だけをボールの方向に向け、

スタンディングでプレイの成り行きを見る。 ピボットマンがボールを

リリースしたら顔もベースを向けてセットポジションの体制になる。

６　投球判定とハーフスイングのコールについて

　　　投球判定は午前中に行ったトラッキングを意識して、しっかりボールを見る。

　　 球審がハーフスイングと判断した時は、**右打者の場合は左手で、左打者の**

**場合は右手で打者を指さし、**続いてストライクのジェスチャーとともに

『ストライク』をコールする。また、ハーフスイングのコールについては、

右手を上で廻す従来のやり方でも構わない。

７　打球判定とランダンプレイ

　　球審と３塁審で行う。以前は、ライン際はベースを境に球審と塁審の責任範囲を

　　分けていたが、野手がベースより、前で打球に触れた時は球審が判定し、ベース

　　周辺を含めて、ベース後ろは、塁審が判定する。**その際に同調は必要ない。**

ただし、ベース周辺のプレイでも野手の陰になり、ボールが見えない時もあるので、

　　試合前の打合せをしっかりして、合図を決めておく。

　　ランダウンプレイは、塁間を２分の１づつ担当する。

　　塁間でのタッツグプレイの場合は、タッグする野手側の審判が判定する。

　 ランダウンプレイが始まったら、ベースから３～４メートル前に出て

　　塁間を結ぶラインから２メートルほど離れたところに位置します。

　　アウトの時は、野手のボール確保を確認してコールする。

　　タッグポイントを左手で差して**『オン・ザ・タッグ』**とコールし、

　　野手のボール確保を確認した後にアウトのコールをする。

８　投手の投球に関する諸事項（ボーク・反則投球及び牽制球に対する説明）

　　ワインドアップは、’投球に関する動作’をおこしたならば、中途で止めたり、変更した

　　りしないで、投球を完了しなくてはならない。

　　【規則違反】

　　　・振りかぶった両手を頭の上で止める

・振りかぶった両腕を何度も上下させる

・両手を振って身体の前方で合わせた後に動作が止まる

・自由な足を一歩後方に引いた後に動作が止まる

・自由な足を上げてから一時的に止める

・自由な足を上げるとき意図的に段階をつける（２段モーション）

　　セットポジション

　　　ストレッチに続き、打者に投球をする前に次の２つを行わなければならない

　　　・ボールを両手で身体の前方で保持すること

　　　・完全に動作を止めること

　　牽制球

　　　・投手板から塁へ送球する場合、自由な足は、“送球する前”に、

送球しようとする“塁の方向”へ、“直接”、“踏み出す”ことが必要

　　　・投手板上から右投手が１塁（左投手が３塁）、または２塁へ送球する場合、

投手板上で軸足が踏みかわっても、その動作が“一挙動”であれば、

さしつかえない。一挙動とは、連続かつ中断しない動作

９　盗塁時の二塁審の動き

　　　・ツーステップで判定する

　　 ・投手が投球動作を始めたら、セットポジションから上体をやや起こし、

前後左右のどちらにでも機敏に動ける体勢をとります。

・捕手が投球を捕ったら、二塁手側に位置した時は、右足、遊撃手側に

　位置した場合は、左足を斜め後ろに一歩引く。

・ボールが近づいて、その軌道が判断出来たら、上記で踏み出した足を

　起点にターンをして、ベースに正対させながらセットポジションを取る

　少なくとも、自分の前を球が通り過ぎる前にはセットポジションを取る

　　・ボールが自分の前を通り過ぎるまで視点を離さない様にする。

　　・視点をベースに合わせタッグプレーに備える

・アウトのときは、セットポジションのまま、野手のボール確捕を確認して

から、コールする

・セーフのときは、ただちに（セーフの写真を確認してから）コールする

１０　キャンプゲーム

走者なしの状況での反則投球でのフォーメーションを実施

　打者がボールを見送った場合、打ってアウトになった場合、ヒットを打った

場合を想定して行う

　　　走者ありでの反則投球（ボーク）のフォーメーションを実施

　打者がボールを見送った場合、打ってアウトになった場合、ヒットを打った

場合、牽制があった場合、牽制が暴投になった場合を想定して行う

　　　代表者による試合を想定した状況での、フォーメーションを行う。

所感

　今後、この講習会で習ったことを意識しながら、グランドに立って、審判の技術向上を

　目指していき、プレーヤーに納得のいく判定をしていきたい。また、これらの事を

　勉強会、試合前の打合せを通じて他の部員に伝えていき、支部全体の技術向上に努める。

以上